

## 中国語学習のチューター

4月22日 月曜日 天気晴れ

ちょっとした偶然から、中国語学習のチューターが見つかった。

この日の午後、散歩のついでに、漸く入手した臨時の学生カードで図書館入口の自動改札を通り、2階の閲覧室にお邪魔した。何しろ書架の並ぶ閲覧室は学生が大勢、一言もしゃべらずに学習に勤しんでいた。そこで探したのは、五月の連休に行く河南省の旅行情報の本、後から日本語で書かれた十年くらい前の『地球の歩き方』を見つけるのだが、この時はそうした本がどこにあるのかもわからず、調べていた。書架の前にあるレファランスの机に司書らしき人が座っていた。彼女に片言の中国語で河南省についての本はないかと尋ねる。静かな部屋なので、どうしても小さい声でやり取りすることに。しかし、聞きづらいことも含め、がちが開かない。なかなか目当ての本にはたどり着けない様。

そこに助っ人が現れた。一番近い閲覧席で、日本語学習に励んでいた李子一さんがやって来て、本を探してくれると言う。わざわざ自分の時間を割いて、図書館の他の閲覧室まで出かけて調べてくれたが、この時は手に入れられなかった。それもそのはず、李さんの説明だと、この大学の歴史と地理の専攻は、本キャンパスでなく、西に数キロ離れた西山キャンパスにあるのだとか。そこに行かないと望みの本は手に入らないだろうとのこと。話している途中で、「あなたは日本人ですか？」と聞かれたので、対対(トゥイトゥイ)と答えた。見ると、今勉強中なのは確かに日本語で、ノートにたどたどしい日本語が書かれていた。

周囲の目もあってその場を離れ、図書館の外に出た。彼女は大学のキャンパスの一番高い所にある国際経営学院の学生だそう。四年生だが、大学院(こちらでは研究院と言う)の入試は今年不合格。来年の合格を目指し、学習しているのだとか。日本語も将来のために習っておこうということで、ただ今勉強中だとか。キャンパスには多数の寄宿舍があるが、彼女もそこに住む地方の出身者で、故郷は四川省の省都成都から少し離れた農村にあるのだとか。家は農家だとも。そう聞いたわけではないが、故郷からこの地へ送り出すために、どれだけ親の期待が大きいのか、想像できる気がした。

話は、中国語学習の事になった。今ここに、中国語を学んでいる私がいる。その同じ場に日本語を自学自習している李さんがいる。私もそろそろ、中国語を話せるチューターが欲しいと思っていた。これで互いの利害が一致した。毎週決まった曜日の午後にこの図書館の前で会い、テキストを持ち寄って学習会を開くことに決めた。春もたけなわとなり、キャンパスには色とりどりの花木が花開いていた。そんなキャンパスの中にある公園で、ベンチに腰掛けて、や

り取りをした。李さんは教えるのがなかなか上手で、発音する時はゆっくりと四声(中国語の抑揚)に気をつけながら話してくれた。どこまで上達したかは、わからない。5月末には早々と故郷に帰省してしまったので、予想より早く終了を迎えたからだ。

しかし、そういう時は後任も探しておいてねと言っていたおかげで助かった。一か月後の5月31日、李さんがSNSで見つけた劉安琦さんを紹介してもらった。この時も、図書館の前で会ったのだが、目印はその身長が185cmにもなる長身だったこと。この理系の専攻の女子学生は、日本のアニメを幼い頃から見て育ち、おかげで日本語が結構できるとか。この大学では少数派の大連市内の出身だが、今はキャンパス北の山を越えた所にある寄宿舎に居があるそうだ。最近親が購入したマンションは、この都会ではよくある郊外の高層マンションでかなり離れている。ここまで通うのは時間もかかり大変だと言うことで、寄宿生活なのだとか。

この長身の劉さんには、特に学期末の試験対策でお世話になった。口語のクラスのテストでは、決められた三つのテーマの小論から一つが試験当日指定され、それを暗記しておいて発表しなければならなかった。きれいに発音できるかは自信がなかった。劉さんが忙しい時に呼び出して、私が書いた小論を三つ音読してもらった。それをスマホで録音し、試験に備えたことを覚えている。劉さん様様だった。

#### ▼ 4月、馬蘭広場前の街路の花

